

学生への報告

2010年度授業アンケートの結果について

白梅学園大学・白梅学園短期大学
FD委員会

皆さんのこの1年の学習や研究はいかがでしたか。良い学びができたでしょうか。昨年から、学習環境の改善や教員がわかりやすい授業方法、授業技術を学ぶために設けられたFD委員会が、この授業アンケートを担当しています。ここに今年度の結果を報告し、今後とも皆さんの学びを支援するためにさらに努力をしたいと考えています。

1. アンケート調査の目的

白梅学園では2002年度より学生の皆さんたちに授業アンケートを実施し、それらの内容から授業の改善を目指してきました。さらに、客観的な評価を行うために、次のように取り組みを続けてきました。

- (1) ゼミナール等を除いて全ての授業でアンケート実施する
- (2) アンケートの回収を授業担当の教員ではなく事務の方々にお願いする
- (3) 記述の部分を電子データ化と評価の数値の平均とを合わせて授業担当者に渡し、残された期間の授業の対応と学生の回答へのコメントを求める
- (4) アンケート結果と授業担当者のコメントをまとめ、FD委員会として皆さん方にアンケート結果を報告する
- (5) 以上の取り組みの結果をもとに、次年度の授業をより良いものとするための各種の研修を行う

2. アンケートの経過と結果

前期は7月初旬にアンケートを実施し、授業担当者に7月中に結果を戻してコメントを求めました。後期は12月中旬にアンケートを実施し、1月下旬には授業担当者にアンケートの結果を配布してコメントを書いてもらいました。そして残された期間での授業の改善をお願いしました。

また授業アンケートの活用について、12月に全教員を対象にアンケート調査を行っていききました。皆さんのアンケートを活かしていくためのもので、これによる改善等については現在検討中です。

以下に、学生の皆さんへのアンケート結果全体と、授業担当者からのコメントを参考に、授業アンケートについて報告をします。

(1) 2010年度授業アンケートの分析

アンケートの回収率は、昨年度とほぼ同様、前期が78%（昨年度75%）で7割を越えましたが後期は68%（昨年度66%）と大幅に減少しています。このように、前期に比較して後期の回収率が減少することの意味を簡単に説明することは難しいのですが、「授業評価アンケートを出しても何も変わらないので意味が無い」と受け止められているとも考えられ、前期のアンケート結果を、後期授業にどのように反映するか、真剣な努力が求められていると考えています。FD委員会としては、アンケート結果を適切に反映する取り組みを行う予定です。今後とも多くの学生にアンケートへの協力をお願いしたいと思います。

評価は5段階で行っており、各質問項目について「そう思わない」1点、「ややそう思わない」2点、「どちらともいえない」3点、「ややそう思う」4点、「そう思う」5点で集計しています。平均が4を超えていれば、全体として「学生に良いと評価されている状態にある」と判断できると考え、この点数を超えることをひとつの目標としています。

評価全体の平均と前・後期の変化を眺めると、全体平均は前期、後期ともに4.0を越えていますが、大学、短大とも、前期の共通科目、教養教育科目に対する評価が4を下回っています。短大教養教育科目の評価点は、後期になって全ての質問項目が大幅に上昇し4.12となったのですが、大学では後期も4を下回りました。これは、受講人数が多いため、「分からないことは、質問したり調べたりする」ことができなかつたと感じる科目や、専門とは異なる授業科目のため「授業全体の内容を理解できたか」「成績評価の方法や基準は明確に理解できたか」という質問項目にたいして低い評価があったためと思われます。早急に、

専門科目以外の科目に関する授業方法、技術の向上を図る必要があると思います。

共通科目以外では、大学子ども学科の1年生で、全ての質問項目で、前期に比べ後期の評価点が減少しています。特に「教員が学生の理解度に配慮していたか」「板書や教材などは見やすかったか」「授業について総合的に満足しているか」という質問項目に対する減少が約0.3と目立ちました。一方、同じ子ども学科の2年生や4年生では全ての質問項目で評価が上昇しています。特に4年生では、「授業の目的が明瞭か」「板書や教材などは見やすかったか」「受講して新しい知識や技能が得られたか」という質問に約0.4もの上昇が見られました。また、家族・地域支援学科でも、前期から後期の評価は4.23から4.54と大幅に上昇しました。特に、授業全体に満足するだけでなく「分からないことは、質問したり調べたりする」という質問への自己評価が上昇したことは、授業への高い評価と考えられます。短大福祉援助学科では、前期から後期への評価点の減少がありました。その他、発達臨床学科2年、短大保育科2年では、若干の上昇が見られましたが、子ども学科3年、発達臨床学科の1年、短大保育科1年では、前期と後期の差はほとんどありませんでした。

評価点を各項目別に眺めると、昨年度の結果と同じく「教員は、授業内容に熱意を持っていたか」への評価が最も高く、次いで「毎回の授業の目的が明確で、それに沿って行われていたか」及び「授業での教員の声の大きさや言葉づかいは適切でしたか」の3つの質問項目への回答です。一方、相対的に評価が低いのは、「今までの授業全体の内容を理解できましたか」、「教員が、学生の理解度に配慮していましたか」「成績評価の方法と基準は明確に理解できましたか」といった質問項目でした。更に「板書や教材などは見やすかったですか」という項目も、前期には相対的に低い評価でした。

一方、「分からないことは、質問したり調べたりしましたか」および「今までの授業全体の内容を理解できましたか」といった自己評価に関わる質問にも低い評価がなされています。授業が多く、調べる時間が無いのか、あるいは、調べる内容が分かりにくいのか、質問しにくいのか、教育方法向上の一貫として、教える側が検討すべきでしょう。

今回のアンケート結果からも、教員が授業の目的を明確にしながら熱意を持って授業に取り組んでいると評価されている一方、授業運営に関してさまざまな問題を抱えていることが分かりました。また学生自身の自己評価項目が低いことも分かりました。早急に、どのような対応ができるか検討する必要があります。

また、自由記述には、教員の授業運営上、授業技術上の問題点が具体的に指摘されています。各教員からも、上記の質問項目の評価や自由記述に対して出された意見を参考に授業を向上したいとするコメントが寄せられています。

評価とこれら自由記述の指摘を参考に、教員には次のように要請しています。

- ・ 学生の理解度を配慮した授業。
- ・ 大きな文字など板書の向上。
- ・ パワーポイント等、情報機器使用技術の向上。
- ・ 適切な表現、話術などについての再検討。
- ・ 遅刻や私語に対して、真面目に出席している学生への配慮。
- ・ 評価の明確化。

今後FD委員会として、FDを推進するため上記の研修を計画しています。

3. 今後の進め方について

アンケートから得られた数値や意見は、授業アンケートへ取り組みを分析する貴重な資料です。

大学での学修は、ゼミナール、図書館や自宅での自習、友人との討論なども大切ですが、アンケートの対象となっている教室での授業は最も重要な学習です。学生の皆さんと授業担当者である教員、そしてそれを支える事務職員のそれぞれの努力があって初めて有効に機能します。したがって今後も授業アンケートを参考にしながら改善をすすめていきたいと思えます。

今年度、FD委員会では教職員を対象に「学士力向上に取り組むためのアンケート」と共に、10月には「学士力向上のための研究集会」を実施しました。今後も引き続きアンケートの結果を参考として改善に繋がる取り組みを継続します。

在学生の皆さんへの次回の授業アンケートは、2011年7月と11月に実施を予定しています。また、アンケート内容の検討も行います。アンケート項目などで意見などありましたらFD委員会までお寄せ下さい。

資料 2010 年度授業アンケートの集計結果

1. 毎回の授業の目的が明確で、それに沿って行われていましたか
2. 今までの授業全体の内容を理解できましたか
3. 教員は、授業内容に熱意を持っていましたか
4. 教員が、学生の理解度に配慮していましたか
5. 授業での教員の声の大きさや言葉づかいは適切でしたか
6. 板書や教材などは見やすかったですか
7. 成績評価の方法と基準は明確に理解できましたか
8. あなたは、この授業に熱心に参加しましたか
9. 分からないことは、質問したり調べたりしましたか
10. この授業を受講して、その分野についての新しい知識や技能が得られましたか
11. この授業について、総合的に満足していますか

2010 前期	履修	回答	回答率	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	平均
大学共通	1789	1424	79.6	4.17	3.75	4.30	3.84	4.16	3.77	3.81	3.98	3.53	4.13	3.98	3.95
子ども1年	1476	1310	88.8	4.29	4.06	4.40	4.03	4.28	4.10	3.93	4.22	3.78	4.20	4.12	4.13
子ども2年	1032	763	73.9	4.30	4.05	4.45	4.07	4.27	4.01	3.88	4.10	3.75	4.25	4.17	4.12
子ども3年	1706	1261	73.9	4.50	4.25	4.69	4.30	4.55	4.26	4.21	4.41	4.03	4.51	4.44	4.38
子ども4年	525	301	57.3	4.34	4.11	4.51	4.18	4.39	4.04	3.90	4.21	3.75	4.29	4.20	4.17
発達臨床1年	654	582	89.0	4.39	4.02	4.44	4.14	4.46	4.15	4.00	4.18	3.46	4.22	4.28	4.16
発達臨床2年	343	301	87.8	4.31	3.89	4.42	3.98	4.31	4.05	4.11	4.07	3.80	4.16	4.07	4.10
家族・地域支援1年	479	397	82.9	4.43	4.20	4.35	4.28	4.36	4.22	4.15	4.31	3.76	4.24	4.28	4.23
短大教養教育	467	354	75.8	3.98	3.38	4.00	3.38	3.80	3.31	3.44	3.80	3.34	3.68	3.48	3.60
保育1年	1781	1567	88.0	4.46	4.12	4.51	4.20	4.45	4.14	4.11	4.32	3.87	4.29	4.21	4.24
保育2年	1670	1013	60.7	4.39	4.13	4.48	4.10	4.38	4.16	4.13	4.22	4.00	4.28	4.16	4.22
福援2年	239	191	79.9	4.16	3.95	4.19	3.97	4.18	3.95	3.84	4.00	3.55	4.04	3.96	3.98
全体(77.8%)	12161	9464	77.8	4.31	3.99	4.40	4.04	4.30	4.01	3.96	4.15	3.72	4.19	4.11	4.11

2010 後期	履修	回答	回答率	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	平均
大学共通	1807	1191	65.9	4.13	3.75	4.35	3.87	4.18	3.78	3.75	3.95	3.66	4.14	3.97	3.96
子ども1年	1016	785	77.3	4.06	3.82	4.26	3.76	4.09	3.81	3.82	3.99	3.65	4.00	3.86	3.92
子ども2年	650	503	77.4	4.46	4.24	4.62	4.32	4.52	4.31	4.02	4.26	3.94	4.47	4.39	4.32
子ども3年	1121	793	70.7	4.51	4.21	4.71	4.31	4.52	4.32	4.11	4.34	4.08	4.53	4.46	4.37
子ども4年	72	55	76.4	4.74	4.45	4.7	4.38	4.53	4.4	4.21	4.43	3.84	4.67	4.51	4.44
発達臨床1年	339	211	62.2	4.38	3.95	4.41	4.12	4.36	4.08	3.99	4.15	3.74	4.2	4.1	4.13
発達臨床2年	458	289	63.1	4.42	4.13	4.49	4.23	4.48	4.14	4.11	4.15	3.87	4.33	4.21	4.23
家族・地域支援1年	223	197	88.3	4.68	4.58	4.62	4.59	4.58	4.57	4.51	4.41	4.31	4.6	4.53	4.54
短大教養教育	161	124	77.0	4.46	4.01	4.43	3.99	4.29	4.02	4.12	4.13	3.67	4.21	4.04	4.12
保育1年	1911	1522	79.6	4.44	4.12	4.48	4.21	4.39	4.06	4.15	4.17	3.8	4.3	4.23	4.21
保育2年	1397	564	40.4	4.45	4.27	4.52	4.27	4.45	4.27	4.25	4.33	4.13	4.41	4.28	4.33
福援2年	283	184	65.0	3.97	3.64	4.04	3.69	4.01	3.67	3.5	3.75	3.29	3.79	3.7	3.73
全体(68%)	9438	6418	68.0	4.39	4.1	4.47	4.14	4.37	4.12	4.04	4.17	3.83	4.3	4.19	4.19